

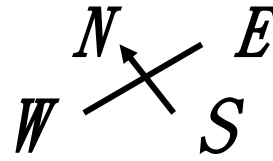
藤 沢

2020年12月1日

第319号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・「埋もれた報告」上映&学習会
- ・海が悲鳴を上げている
- ・武田漏洩事故を忘れない
- ・温暖化ガス排出ゼロのムーブメントを

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

核兵器禁止条約を批准する政府に

2020年のNPT再検討会議とそれに伴うニューヨーク行動は、新型コロナウイルス感染防止のため延期となり、原水爆禁止世界大会をニューヨークで開く計画は日本でオンライン開催となりました。また、8月6日を起点に9日までの4日間、「ヒバクシャ国際署名」を共通の行動とする『平和の波行動』が呼びかけられ、全世界で多彩な行動が取り組まれました。

藤沢では毎年の8月6日・9日の署名行動のほか、6日の朝8:00から30分間スタンディングをしました。8:15には黙祷。掲げた90cm×5mの横断幕はアピール力抜群でした！核廃絶と平和を目的にかかげる新日本婦人の会藤沢支部では、いくつかの神社・お寺・教会にお願いし、投下時間に鐘をついてもらう『平和の鐘行動』をし、9日の長崎原爆投下時間11:02には子どもたちも平和を願って鐘をつかせてもらい、夏休みの特別な一日となりました。ちょうどこの日、核兵器禁止条約発効に必要な50カ国批准まであと7カ国という発表がありワクワクしたことを思い出します。

それから2ヶ月余りが過ぎた10月23日、ジャマイカ、ナウルが国連に批准書を寄託して49カ国になった時、最後はどこの国なんだろうと世界中が注目。なんと翌日24日、国連創設デーに中米のホンジュラスが寄託し、とうとう50カ国に!! 被爆者の方々はどれほどの喜びだったことでしょう。

2017年7月7日に国連総会で採択された核兵器禁止条約は2021年1月22日に発効！

「核兵器が違法」となるこの条約は、保有・使用にとどまらず使用すると脅しや譲り渡しなども禁止しています。

2016年4月に国内外の9人のヒバクシャが呼びかけた『ヒバクシャ国際署名』は12,612,798筆を集約しました！

世界各地で被爆の実相を伝え「核兵器の被害者は自分たちを最後にしてほしい」と訴え続けている被爆者の想いを無視し、核の傘の下にいたい日本政府は条約に背を向けています。

「唯一の戦争被爆国」日本は核廃絶の妨害者と見られていると、原水爆禁止日本協議会の土田事務局長は言います。核兵器のない世界のために努力する日本の実現が緊急に求められています。

『日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名』が始まりました。被爆者をはじめ各界・各層の代表135氏が共同呼びかけ人に。「核兵器で平和と安全は守れない」を広め、日本政府が禁止条約に参加するまで署名を訴えていきたいと思ひます。

(望月知子)



平和の灯 市役所分庁舎前広場に広島から採取した灯が灯っています

「埋もれた報告」上映&学習会

水俣病公式確認から 20 年後の 1976 年に製作され放送された「埋もれた報告」は、今から 44 年前のドキュメンタリー番組です。NHK の大治浩之輔記者が、水俣病の拡大はその初期の 4 年間で適切な動きがあればくい止められたはずだと確信し、熊本県の行政文書を発掘し、誰がそのように動かなかったのか、誰がどのように阻んだのかを本人達に突撃取材して明らかにしてゆきます。産業を優先して、チッソが原因だということを覆い隠したのはチッソだけではなく、行政がその手助けをしていたということが見えて来ます。

取材された医師が当時を振り返り、「行政というのがほんとにイヤになった……」と言うのですが、この言葉は象徴的です。

取材当時の大治さんは突撃取材を繰り返しその真相に迫って行きますが、態度はあくまで冷静で、昭和の時代の丁寧な言葉遣いが印象的でした。

10 月 31 日の上映後に、その大治浩之輔さんご本人に登壇いただきました。翌日 11 月 1 日が 85 歳の誕生日ということでしたので私たちは 40 歳の大治さんの取材番組を視聴し、その 44 年後の大治さんご本人のお話を聞くことができました。

現役のジャーナリストとして活動しておられる大治さんの言葉は、44 年前の番組での姿よりも力強く批判精神にあふれていました。会場から「今、日本では、『内閣情報調査室』のような活動が行われているけれど、当時そのような圧力は感じなかったのですか？」という質問がありましたが、「そんなことを考える余裕はない。患者に出会った以上患者を裏切ることとはできない。やらなければ気持ちが悪い。」という力強い言葉が返って来ました。

続いて大学生の時から 50 年間水俣支援をして来られた久保田好生さんのお話をうかがいました。

水銀汚染は今もあるし、体内水銀量は微量でも健康には毒であること、今も認定訴訟が続いていること、2004 年に国と県の責任を認める判決が出たこと、2012 年 7 月末までに締め切られた医療救済申請者が約 65,000 人も出たことなど、水

俣病が、まだ終わっていないことを強く印象づけられました。

黒い雨訴訟の被爆者や福島の被ばく者との連携も必要だと感じさせるお話でした。水俣の第 2 世代の患者さんたちの闘いは水俣病第 2 世代訴訟という形で続いています。最高裁への葉書キャンペーンに参加すれば、その支援になります。知った以上は、その方々の支援をしてゆこうと思いました。皆さんも、是非、葉書キャンペーンにご協力ください。

(すどうゆりこ)

海が悲鳴を上げている これ以上海を汚さないで

地球表面の 3 分の 2 以上を覆う青く美しい海。その海が今、危機的な状況に直面にしています。原因は温室効果ガス Co2 の排出です。

海水温の上昇、酸素の足りない海水域の広がり、海洋酸性化、プラスチックごみの漂流などなど地球温暖化の影響で今、「海は追い詰められ」ているのです。魚などの漁業資源の減少がこのまま進むと将来、私たちの生活はどうなってしまうのか心配になります。

そこでこれらの事を勉強しようと、11 月 8 日「追い詰められる海」と題する講演会が藤沢市民会館で開催されました。講師は井田徹治さん---科学ジャーナリスト、共同通信社編集委員。環境問題の取材をライフワークとして取り組んできただけに、この切羽詰まった海の状況を「危機的」と表現して語られました。

菅首相は所信表明演説で「温室効果ガス CO2 排出 2050 年までにゼロにする」という目標を掲げました。安倍政権では CO2 ガス排出の元凶である化石燃料発電を主な電源とする方針でしたから、菅首相の「2050 年ゼロ」の目標は画期的と思った人も多かったでしょう。しかし「2050 年までに CO2 ガス排出ゼロ」は、すでに世界の潮流になっており「火力を主電源」とする日本政府の取り組みは、世界の孤児になりつつあったのです。世界の流れを 2 周 3 周遅れでようやく飛び乗ったということだったのですね。とても勉強になる講演会でした。「湘南のなぎさを守る藤沢市民の会」本阿弥光彦



温室効果ガス排出ゼロのムーブメントを!!

「地球温暖化を止めたい」「気候危機は待ったなし」「何とかしたい」との思いからこの8月末にできたばかりの気候危機アクション藤沢は11月13日、環境に関わる市内24団体と連名で「ゼロカーボンシティ」の表明を求める市長要望書を提出しました。さらに、「気候非常事態宣言」を求める署名940筆を集め、陳情書を11月24日に提出、12月2日の厚生環境常任委員会に諮られ全会一致で趣旨了承となりました!

CO₂排出量の「2050年実質ゼロ」を表明した自治体(ゼロカーボンシティ)は、今年11月には175自治体(人口8,206万人)と急増しています(11/25現在)。

また、10月には菅首相が「2050年に実質ゼロ」を表明し、11月19日には衆・参両院で「気候危機非常事態宣言」が全会一致で決議されました。

署名を集める中で市民は、温暖化について関心はあるが、気候危機というイメージは十分ではないと感じられたという声が寄せられています。

温暖化が進行し気候変動といわれてきたが、後戻りできない段階に入りつつある「気候非常事態」という危機感を共有することが重要です。気候危機セミナーが11月28日に行われ、講師の山本良一氏(気候非常事態ネットワーク代表)は温暖化の進行は科学的には疑う余地はない。このままで行くと、特に深刻な問題は、熱波による死者は全世界で35億人を越えるという論文がでた。気温が35℃を越えると体温調節ができなくなるからであると。

このセミナーに参加した宮治副市長がセミナーの最後に「気候危機は待ったなしと改めて思った。行政としてしっかりやると共に市民一人ひとり全てのセクターで取り組み、市としてカーボンニュートラルムーブメントを」とコメントしていました。

コロナ対策での経験を活かして、専門家の科学的知見に基づき政策を決定することが重要です。私たちのアクションが次の世代が生きていくために必要で、豊かな藤沢の環境を残すことに繋がっています。

地球温暖化は待ってくれません。私達市民が一丸となって取り組まなければ解決しない大きな問題です。

今動かなければ、子どもたちの世代に多くの課題を残すことになり、その時にはもう手遅れになっている

可能性があります。私達には時間がありません。

市民に「気候非常事態である」事実を広く知らせ、全てのセクターが協力し、危機を乗り越えるムーブメント起こそうではありませんか!!

(気候危機アクション藤沢 宮地俊作)

遺伝子組換え廃液漏洩事故を忘れない!

武田薬品湘南研究所は2011年2月に開業し、同年12月1日に、5棟の内1棟で行われていた集中一括滅菌装置から大量の滅菌していない廃液が漏えいする事故を起こしました。それ以来毎年、武田問題対策連絡会は武田薬品の門前で宣伝行動を行い、注意喚起を呼び掛けています。

2019年には市民の要求が実り、集中一括滅菌装置は流しすべてを撤去して、使用不可となりました。しかし問題は他に次々出てきました。

建物は同じですが、中味がすっかり変わったのです。2018年から湘南ヘルスイノベーションパーク(略称湘南アイパーク)となり、現在70社以上が入居し、製薬研究部門はその内約30社、その上9月30日、武田薬品工業(株)は湘南アイパークの土地・建物全てを三菱商事ユービーエス・リアルティに売却譲渡しました!

更にその上、遺伝子組み換えなどの研究の安全を担保する神奈川県バイオテクノロジー環境安全管理指針が9月30日に廃止されました!。理由は「県環境の保全等に関する条例」に基づく指針「環境の負荷の低減に関する指針」の中に“遺伝子組み換え作業に伴う環境負荷の低減に関する規定の追加”がされ、重複が生じたことからとあります。

しかし追加の内容は、遺伝子組み換え作業に伴い発生する排煙、排水等の適正処理や処理施設の維持管理に関する規定のみで、遺伝子組み換え研究に特化した報告義務などが、欠如しているようです。

藤沢市及び鎌倉市は武田薬品工業と結んでいる環境保全協定を改訂し、市と三菱商事ユービーエス・リアルティ及び武田薬品工業はじめ研究開発をしている約30社と協定を締結し、以前の県バイオ指針の内容を含む協定となるよう、強く望みます。

(武田問題対策連絡会共同代表 青柳節子)



コロナの現状 ⑤



コロナ感染第3波は留まる様子がない。8月ごろをピークとした2波、その後は少し減少したものの3波としか言いようのない感染拡大となり医療崩壊の危機となっている。

藤沢では累計感染者は473人、検査数は14677件となって、10月は48人、11月は151人と爆発的に増加した。年齢70歳以上で見ると10月が7人、11月は34人であった。退院者は380人ほど(11/30現在市のHP)。

政府は新型コロナウイルスの感染拡大により打撃を受けている観光や飲食業を支援するため、需要喚起策として「GoTo キャンペーン」を実施、4つの事業の実施に踏み切った。全体の事業規模は1兆6794億円。

GoTo トラベルが10/1から実施されて急速に全国的に感染が広がった。旅行代が割引のほかクーポンが利用でき超お得な旅行ができる。たしかに観光シーズンでもあり旅行関係者の死活問題解決には一定の策ではあるが、全国的に感染者のばらまきとなっているのが現状ではないだろうか。

GoTo トラベルのほかイート、イベント、商店街支援があり何れも期限が切られている。GoTo イートはスマホなどオンラインで飲食店を予約し利用した方へのポイント還元を実施。これでは使えないなどの批判がある。藤沢商工会議所他で9月1日から「ふじさわ元気回復プレミアム商品券」を販売申し込みが始まり、11月16日から追加販売し、郵便局などは求める人の長い行列ができた。

急増した感染者の医療体制、病棟確保、保健所の検査体制が案じられている。再び外出禁止や一斉休校になってはならないと感ずる。(荒井)



放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 (μSv/h) 地上50cm

12/1 晴 藤沢市役所本庁舎入口	0.055
12/1 晴 藤沢市役所本庁舎 1F ホール	0.077
12/1 晴 湘南大庭公民館入口	0.053

ECONET INFORMATION

▲ふじさわ・不戦のちかい 平和行動

12月8日(火) 13:30-14:30

辻堂駅北口デッキ *コロナ対策して参加を!

主催 実行委員会 植木 (090-9019-1350)

▲映画 マイクロプラスチック・ストーリー

12月19日(土) 14:00-16:00

藤沢市民会館第一展示ホール 予約制¥1000

主催: 気候危機対策ネットワーク

申込み: 0466-50-0117

▲ユリカモメのカウント観察

スタートは引地川・境川・柏尾川の下流から上流までの一区分 20分間にカウントします

12/19(土) 10:00 雨天時は12/26(土)

主催/問合せ 藤沢探鳥クラブ(藤山)

☎0466-25-1817



▲ふじさわ環境パネル展

環境フェアが中止のためパネル展になりました

12月14日(月)~18日(金)

藤沢市役所分庁舎ロビー (最終日は正午まで)

▲葉山の海岸ウォーク

12月30日(水) ¥700 子ども¥200

▲ヨット体験 サンセットセーリング

1月2日(土) 申し込み制

主催/申込み詳細は

エコストアパパラギ ☎0466-50-0117

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 7㉿ ㊿㊿㊿㊿㊿㊿

◆事務局会議 12月5日(土) 10:00~

六会公民館

《編集後記》今年もあとわずか、新型コロナとの闘いの1年でありこれからも続く。首相が安倍から菅首相に代わり、市民生活を脅かすコロナの対策では歯がゆさが目立つ。「2050年までに温室効果ガス排出ゼロ」と表明したが中身は原発推進とあり原発再稼働を進めている。気候非常事態なのだ!との認識を更に進めて原発に頼らない温暖化防止の施策を望む。(H)